## 皆が活きる、皆が伸びる、皆が幸せになる

# 広島市立広島市民病院 70周年

地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立広島市民病院
Hiroshima City Hiroshima Citizens Hospital
〒730-8518　広島市中区基町7-33
病床数:743床 一般／715床 精神／28床
診療科目(37科)

**診療科目は37科、病床数は743床を有する中核病院として地域医療を支える広島市立広島市民病院。惨禍の残る1952(昭和27)年8月に開院し、都市の復興とともに市民、県民の健康を守り続け、このほど70周年を迎えました。その70年の歩みと、高度で幅広い医療を提供する広島市民病院の特長を紹介します。**

## ごあいさつ

病院長
秀　道広

広島の基町に生まれた広島市民病院は、今では全国屈指の総合病院となって発展を続けています。多種多様な患者さんの受診は医療スタッフの育成につながり、当院は他府県からの医師、スタッフの参加も得てその育成にも取り組んでいます。今日、医学や医療は高度に発達し、一つの病院だけで医療を完結することはできません。そのため、他の多くの医療機関と連携し、患者さんとその家族にも積極的に医療に参加していただくことで、全ての人がその人らしい生活を送られることを目指しています。これからも、皆さんに愛され信頼される、トップレベルの医療を担う病院であり続けたいと思います。

特任病院長
塩崎　滋弘

2022(令和4)年8月に広島市立広島市民病院は、満70歳の誕生日を迎えました。1952(昭和27)年8月に、原爆の惨禍が残る広島西練兵場の跡地(現在の広島市中区基町)に89床で創設された当院は、広島市そして市民の皆さまと共に昭和、平成および令和を駆け抜けて発展してきました。現在743床、37科を擁する総合病院となり、当院の二つの大きな柱である救急医療と、循環器治療・がん治療・周産期医療などの高度で専門的な医療を、広島市民、広島県民の皆さまに提供させていただいています。これからも広島の皆さまへの良質な医療提供を無二の目標とし、職員一同、心を引き締め頑張っていく所存です。引き続き一層のご指導、ご鞭撻(べんたつ)をよろしくお願いいたします。

病院機構 理事長
竹内　功

広島市立病院機構は、市立4病院、1施設で構成する地方独立行政法人として2014(平成26)年4月に設立されました。これまで広島市民病院は、広島市の医療施策上必要とされる医療の提供に関して、中心的役割を担うとともに地域の医療水準をリードする高度急性期病院として高い医療水準の維持・向上に努めてきました。団塊の世代が75歳以上となる、次の10年に向かっては、限られた医療・介護資源を効率的に活用するうえで、ますます、広島市民病院の役割は重要なものとなってきます。引き続き、市民に信頼され、満足される質の高い医療を継続的かつ安定的に提供してまいります。

病院機構 副理事長
影本　正之

広島市民病院は、周囲に原爆の爪痕が多く残っていた現在の地に、ベッド数89床、診療科は内科、外科など4科の小規模病院として開設されました。その後、診療体制の充実を重ね、現在では、広島を代表する基幹病院、更には、日本でも有数の高度急性期病院として70周年を迎えることができました。私は、広島市民病院の医師として23年間、その後10年間は病院運営を統括する職として、病院歴史の半分近くを共に歩んできましたが、当院の発展は、歴代職員の努力とともに、市民の皆さん、そして広島市などの行政や各医師会などの支援のたまものと実感しています。今後も、広島市立病院機構の他の3病院とともに「広島市民の命と健康を守る」という使命感を持ち、歴史を重ねることを願っています。

## 沿革

1952(昭和27)年
- 8月　病院開設許可(診療科目:内科、外科、小児科、産科　病床数:89床)

開設当時の病院

1953(昭和28)年
- 2月　放射線科新設
- 6月　耳鼻咽喉科、眼科新設
- 11月　歯科新設

1954(昭和29)年
- 5月　第2次病棟増築工事完成
- 7月　皮膚泌尿器科新設

1956(昭和31)年
- 6月　結核病棟完成

1957(昭和32)年
- 4月　整形外科新設
- 5月　手術棟完成

1958(昭和33)年
- 6月　特別病棟完成

1959(昭和34)年
- 4月　心臓外科新設

1961(昭和36)年
- 2月　麻酔科新設
- 8月　霊安室、解剖室新設

1962(昭和37)年
- 6月　防火貯水槽(プール)完成
- 10月　皮膚泌尿器科を皮膚科、泌尿器科に分離

1966(昭和41)年
- 3月　神経科新設
- 4月　精神科新設

1967(昭和42)年
- 6月　救急病院指定
- 8月　脳神経外科新設
- 9月　病理部新設

1968(昭和43)年
- 1月　気管食道科新設

1969(昭和44)年
- 4月　臨床生化学検査部新設

1970(昭和45)年
- 4月　人工腎臓センター開設

1972(昭和47)年
- 1月　院内保育室開設

1976(昭和51)年
- 3月　西病棟・外来診療棟新築工事完成
- 4月　人工腎臓センター拡充
　形成外科新設

外来診療棟・西病棟

1977(昭和52)年
- 1月　臨床研修病院に指定
- 4月　健康管理センター開設
- 7月　救命救急センター開設(20床)

1978(昭和53)年
- 3月　病歴管理サプライセンター開設

1979(昭和54)年
- 8月　未熟児新生児センター開設(25床)

1980(昭和55)年
- 4月　心臓血管外科、理学診療科新設

1990(平成2)年
- 3月　玄関棟4階増築工事完成
- 4月　新中央棟第1期工事完成

1991(平成3)年
- 4月　呼吸器科、循環器科、呼吸器外科、小児外科新設

1992(平成4)年
- 6月　新中央棟第2期工事完成

1994(平成6)年
- 4月　循環器小児科新設

1997(平成9)年
- 1月　理学診療科をリハビリテーション科に名称変更
　リウマチ科、歯科口腔外科新設
- 2月　災害拠点病院に指定

2001(平成13)年
- 4月　病院事業局設置

2005(平成17)年
- 3月　東棟完成

2006(平成18)年
- 4月　医療連携室を医療支援センターに改組
- 5月　増改築整備等に伴い病床数を758床に変更
　電子カルテシステム導入
- 8月　地域がん診療連携拠点病院に指定
- 12月　総合周産期母子医療センターに指定
　救急診療部新設

2007(平成19)年
- 2月　増改築整備等に伴い病床数を743床に変更
　西棟及び北棟の改修工事完了
- 4月　がん診療相談室の新設

2008(平成20)年
- 2月　プロムナードの供用開始

2009(平成21)年
- 4月　乳腺外科新設

2010(平成22)年
- 4月　総合診療科新設

2011(平成23)年
- 4月　放射線治療科新設
　(財)日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成

2012(平成24)年
- 4月　内視鏡内科、緩和ケア科新設
- 9月　市立病院として全国初の手術支援ロボットの導入

2013(平成25)年
- 4月　血液内科新設

2014(平成26)年
- 4月　地方独立行政法人化

2015(平成27)年
- 4月　心臓・大血管低侵襲治療部、放射線診断科、放射線技術部新設
- 6月　ハイブリッド手術室運用開始
- 8月　入院支援室開設

ハイブリッド手術室

2016(平成28)年
- 4月　(財)日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成
　内分泌・糖尿病内科新設

2017(平成29)年
- 4月　腎臓内科新設
- 9月　HCU(高度治療室)開設

2018(平成30)年
- 4月　口唇口蓋裂センター、ブレストケアセンター開設

2019(平成31)年
- 9月　手術件数年間1万件達成
- 8月　臨床検査室の国際認定(ISO15189)取得
- 10月　放射線治療に関する国際的施設認定「Novalis Cerified」を日本で3番目に取得

2020(令和2)年
- 4月　脳卒中センター開設

2021(令和3)年
- 4月　新型コロナウイルス病床確保

2022(令和4)年
- 4月　感染管理室開設
- 9月　(財)日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成

## TOPICS　広島市民病院の強みや特長とは。

### 高度な医療技術

**①がん治療**

2006(平成18)年8月に「地域がん診療連携拠点病院」、20(令和2)年3月に「地域がん診療連携拠点病院(高度型)」に指定され、地域の医療機関との連携を深めながらがん診療を行っています。患者それぞれの病状や病変の進行度に応じた治療を原則に、診断から緩和に至るまでチーム医療による療法を組み合わせた「集学的がん治療」を実践しています。

早期がんに対しては患者の負担が少ない低侵襲(ていしんしゅう)手術や機能温存手術を、進行がんには根治と機能温存の両立を目指した治療、さらに進行したがんや再発がんに対しては化学療法や放射線療法を組み合わせ生存期間の延長に努めています。次世代のがん個別化治療の一つである、遺伝子情報に基づいた「がんゲノム医療」の体制も整えています。

手術では胃、肺、大腸など5大がんをはじめ、ほぼ全てのがんに対応。21(令和3)年1～12月は2197件の手術を行い、中でも乳がんは高い実績を誇ります。患者や術者の負担を軽減できる手術支援ロボットは12(平成24)年に導入。21(令和3)年は外科や消化器科などで286件を施術しました。今春には2台目を導入し、さらなる増加を見込んでいます。化学療法は「通院治療センター」の整備により年間約1万2千件、放射線療法では年間約700～800例のがん症例に照射療法を行っています。16(平成28)年に増設した「高精度放射線治療装置」によって、さらに安全で精度の高い照射治療を提供しています。

手術支援ロボット

**②循環器疾患治療**

高度な循環器疾患治療を行う循環器内科は、虚血性心疾患、不整脈、構造的心疾患の三つの部門で診療しています。狭心症や急性心筋梗塞など緊急性のある虚血性心疾患に対し、循環器内科では24時間体制で対応。心臓カテーテル検査や細くなった冠動脈を処置する「冠動脈インターベンション」が施行できます。不整脈治療では主に、カテーテルを用いて不整脈を抑える「カテーテルアブレーション」を施行。初期成功率、慢性期の再発抑制率も向上してきています。構造的心疾患である大動脈弁狭窄(きょうさく)症については、カテーテル治療(TAVI)を実施。2016(平成28)年から治療を開始し、月に10～12例のペースで施行しています。

カテーテル治療(TAVI)

### 充実の救急医療

虚血性心疾患、脳血管障害の治療を主な目的とした「救命救急センター」は、全国4施設の一つとして1977(昭和52)年に開設しました。2006(平成18)年12月には、軽症患者の一次救急から重症・重篤患者の三次救急まで幅広い受け入れができるよう「救急診療部(現救急科)」を設置。11(平成23)年10月からは、受け入れ困難な患者を一旦受け入れて、初期診療を行った上で支援病院へ転院させる救急コントロール機能の運営を始めました。現在は心臓冠動脈疾患集中治療管理室(CCU)、脳血管障害疾患集中治療管理室(NCU)、高度治療室(HCU)を有す「救命救急センター」と「救急科」「集中治療部」などの連携により、密度の濃い救急医療を提供し、さらなる充実を図っています。救命救急センターの利用状況は、21(令和3)年4月～22(令和4)年3月で入院患者数1589人、手術件数194件と高い推移を続けています。

### 周産期の手厚いケア

総合周産期母子医療センターは、新生児、産科、小児外科部門で構成されています。低出生体重児や重症新生児の総合的な治療体制を確立するために1979(昭和54)年、未熟児新生児センターを開設しました。現在、新生児集中治療室(NICU)は9床、新生児回復室(GCU)は24床で、未熟児や新生児の総合的なケアを行っています。2021(令和3)年1～12月の入院患者数は341人。母体搬送を含めた院内外からの入院のほか、院外でのハイリスクな分娩の立ち会いなど、県内外の総合・周産期母子医療センターとも連携し、全ての新生児疾患に対応できる体制を取っています。

産科は36床で運営。ハイリスクの妊産婦管理を行い、緊急の帝王切開にも対応するとともに新生児部門と連携して先端的な周産期・新生児医療を提供しています。また小児外科においても他県からの患者も受け入れ、新生児を含む手術は21(令和3)年1～12月で295件を行っています。

## 広島市立病院機構の他3病院・1施設

広島市立4病院・1施設を運営する地方独立行政法人「広島市立病院機構」は2014(平成26)年に発足しました。市民の健康の維持・増進を図るため、市民に信頼され満足される質の高い医療を安定的に提供しています。

### 広島市立北部医療センター安佐市民病院

概　要

**高度・急性期病院**
**(DPC特定病院群)**

病床数:一般／414床
精神／20床
〒731-0232
広島市安佐北区亀山南1-2-1

### 広島市立舟入市民病院

概　要

**小児救急医療拠点病院**
**第二種感染症指定医療機関**
**地域密着型急性期病院**

病床数:一般／140床
感染症／16床
〒730-0844
広島市中区舟入幸町14-11

### 広島市立リハビリテーション病院・自立訓練施設

概　要

**高次脳機能地域支援センター**
**リハビリテーション病院・自立訓練施設・身体障害者更生相談所の3施設(広島市総合リハビリテーションセンター)で構成(更生相談所は広島市の直営)**

病床数等:病院／一般100床
施設／自立訓練 定員60人、短期入所支援 定員若干名
〒731-3168
広島市安佐南区伴南1-39-1

企画・制作／中国新聞社 地域ビジネス局